

「昼どきセミナー」 20191113
於:中央図書館

松本キャンパスのはじまり

—信州大学誕生 その2—

大学史資料センター
福島正樹

大学史資料センターのしごと

1 長野県における大学設置運動の歩み

信州大学が生まれるまで

2 前身校の歴史

前身校はどのように信州大学の学部となったか

3 信州大学創設の具体的過程

4 それぞれの時代に活躍した先人

5 学生生活のようす など

→ 資料の収集整理保存、調査研究、公開・展示

本日の話し

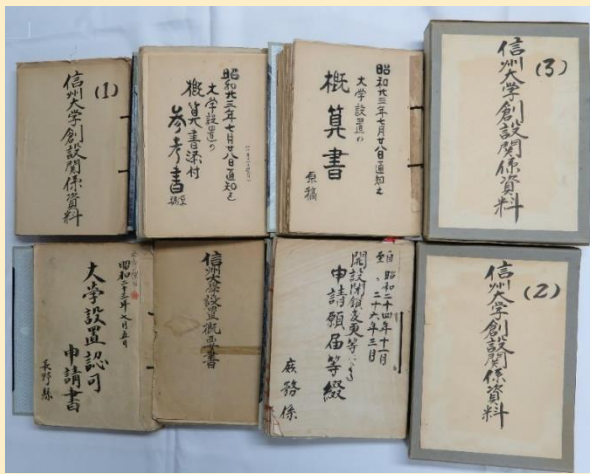
→ 新発見資料を交えながら、3、4に関して、松本キャンパスの誕生に焦点をあてて話したい。

信州大学創立70周年・旧制松本高等学校100周年記念事業 企画展「信州大学誕生」

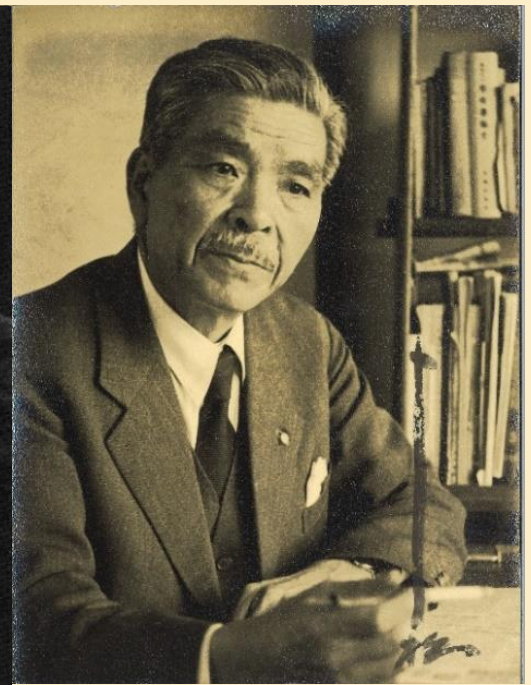
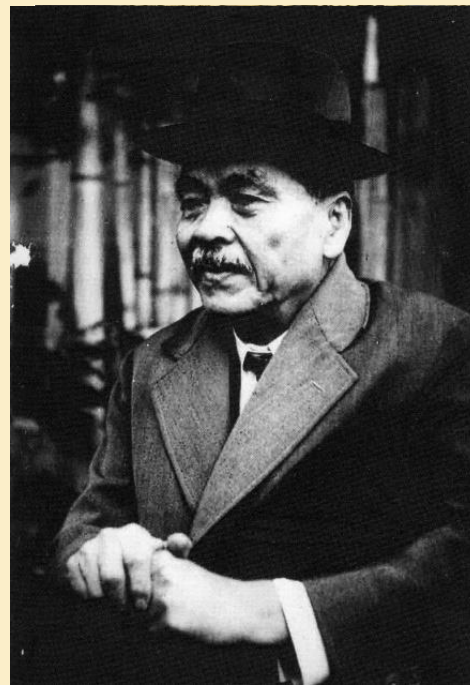
記念事業で収集した資料

- 本部における信州大学創立関係資料の発見・保存(2017年)
- 各学部における創立関係資料の発見・保存(2017～2019年)
- 卒業生、旧教職員からの資料。特に**創立責任者資料の寄贈**
(竹内松次郎)

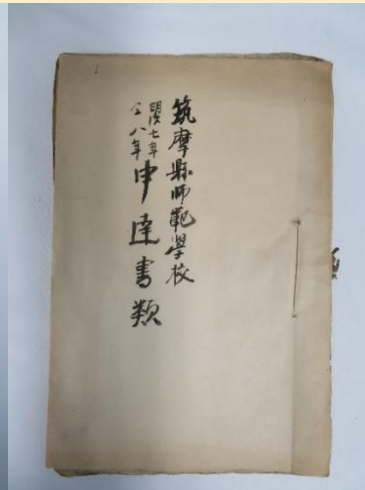
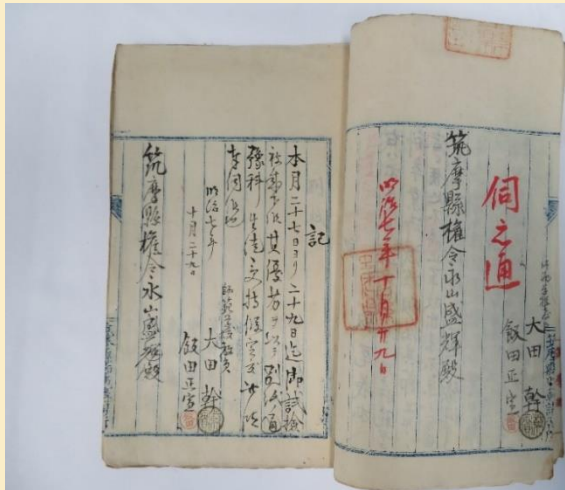
→企画展サブタイトル「残された文書が語る誕生の舞台裏」



創立期前後の資料 = 大学部局資料



創立責任者 竹内松次郎



最古の資料：筑摩県師範学校の資料（教育学部）



竹内松次郎初代医学部長像

このケヤキ並木のなかに、松本医学専門学校校長、松本医科大学学長をつとめ、信州大学開学に際して設置事務局長を務め、さらに初代医学部長となった竹内松次郎の銅像が建てられている。1981年建立。

竹内^(たけのうち)松次郎資料:

松本医学専門学校校長として赴任した1944年3月から、福井大学長として松本を離れる1949年8月まで、日々作成した文書の草稿、清書などの原稿類を年代順にファイルしたもの。竹内氏の末娘柳下洋子さんの整理にかかる。(クリアファイルに整理 72冊 データ整理はこれから)

2018年、企画展「信州大学今昔」に来訪。資料を寄贈していただく。

竹内松次郎資料の価値

→ 創立期の大学に関する方針、
キャンパス計画

→ 信州大学の設立過程

竹内松次郎(1884～1977)

松本医科大学長、信州大学創設事務責任者、信州大学医学部長
東京帝国大学医学部名誉教授

1884年 誕生(福井県丹生郡大虫村)

1907年 東京帝国大学医科大学入学

1912年 東京帝国大学医科大学助手

1917～20年 文部省外国留学生(血清学・免疫学) 米英独伊
仏に留学

1922年 東京帝国大学教授(医学部細菌学教室初代教授)

1937年 欧米出張 ドイツ国ゲッチンゲン大学創立200周年
記念式典など参列。→「学都松本」

1944年 松本医学専門学校校長として松本に赴任

1945年 東京帝国大学定年退職

1946年 旧陸軍歩兵第五十連隊駐屯地を松本医専
キャンパスとして確保

→キャンパス植樹

「官舎之記」

「学都松本」

1948年 松本医科大学学長

信州大学実施準備委員会委員長

信州大学創立事務責任者→

1949年 信州大学初代医学部長

1949年 福井大学学長(～1954年)

1977年 死去(92歳)

松本キャンパスの変遷

1919年

あがたの森：松本高等学校

1944年

松本高等学校校舎・松本中学校校舎等：松本医学専門学校

松本市立病院：松本医学専門学校附属医院
松本医科大学附属医院
信州大学医学部附属医院

旭 1946年

旧陸軍第五十連隊兵営：松本医学専門学校
(1948年松本医科大学)

1949年

1949年

1953～60年

信州

大学開学

文理学部

(旧陸軍第五十連隊兵営)：医学部
附属医院

人文学部・理学部 1966

1950年代～1970年代

人文学部・理学部

松本キャンパスへの統合

1973

1969

1 信州大学開学前史

— 1944年～47年 —

松本医学専門学校と 校長竹内松次郎の キャンパス構想

1944年2月：松本医学専門学校設置

校長：東京帝国大学医学部名誉教授竹内松次郎。

校舎定まらず：松本高等学校 → 松本中学校

戦後・・・

1946年2月：竹内松次郎、物部長野県知事と会談

旧兵営・練兵場を松本医学専門学校の用に供する件

1946年4月：旧歩兵第五十連隊跡地に移転

「構内地域植樹の事」

1946年12月15日：校長官舎に移転

→ 1947年1月5日 漢詩「官舎之記」

1947年7月：随筆「学都松本」





松本医学専門学校

旧練兵場

旧連隊兵営

忠霊殿（陸軍墓地）

旧陸軍病院

護国神社

長野師範学校女子部

1946年の松本

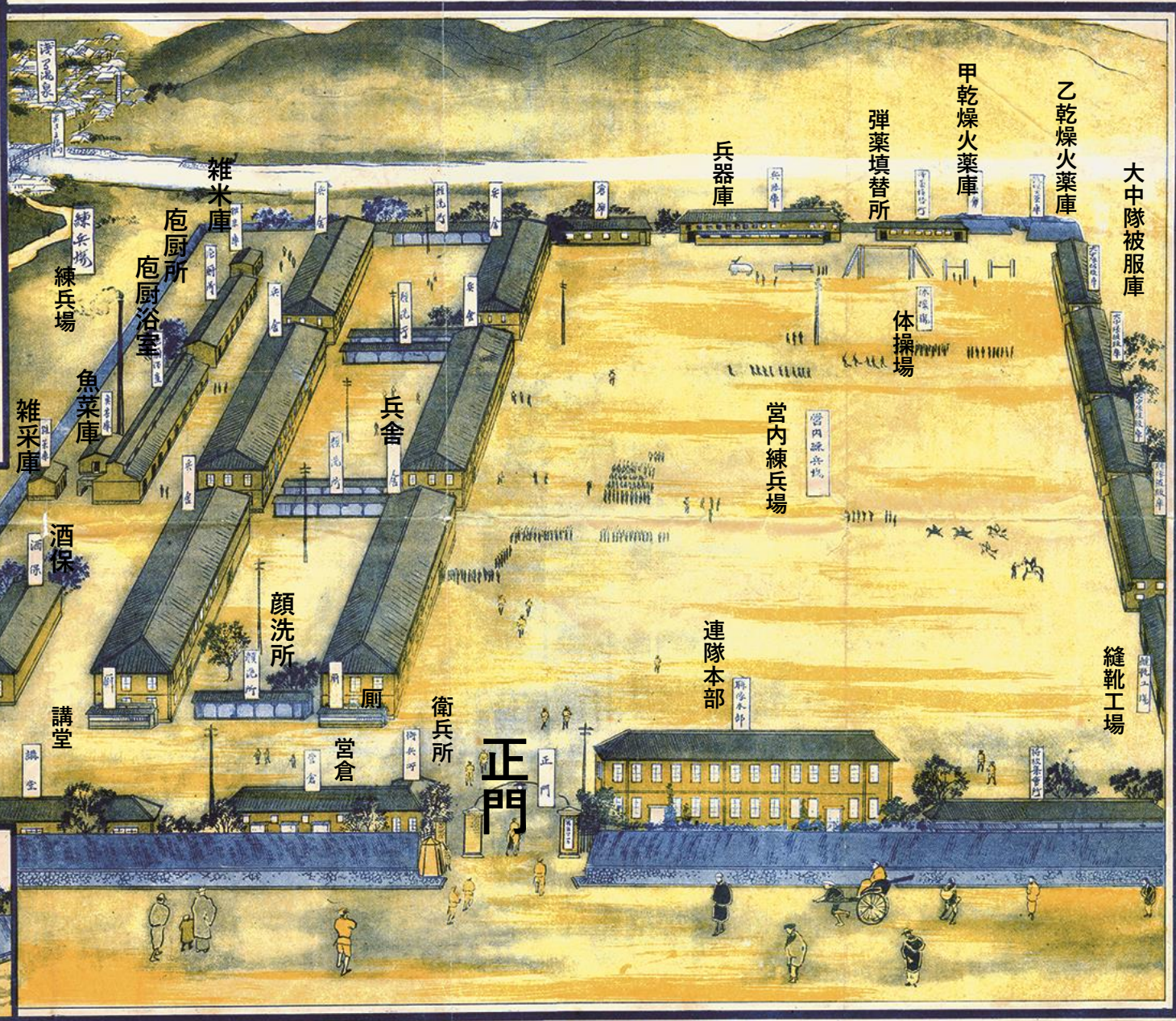
米軍航空写真
1948年11月

松本中学校

附属医院

旧射撃場

本松
歩兵第五十聯隊之圖



明治四十一年十月十五日印刷 松本連隊区司令部 松本正樹 繪 松本正樹 繪 松本正樹 繪 松本正樹 繪

明治41年

「信州松本繪葉書集成」(窪田雅之編著 書肆秋櫻舎刊)

襖裂不許

定價金五錢

構内地域植樹の事

1946年4月

(昭和廿四年己丑四月三十四日に亘る。)

- 一、戦時中並に戦後にかけての山林の亂伐に鑑み、今春に在りて、植林の必要が、治山治水の方面を主としての議論として、新聞「ラヂオ」等にて、大に宣傳せられ始めたり。「四月三日」は例年、緑地運動の植樹祭の日とせられたる旨もあり、今年同日には、天皇皇后兩陛下さへも、「稻俣千石原」にて記念の植樹を爲されたりと云ふ。
- 一、舊松本第五〇部隊跡の土地約五力坪の構内には、「兵營」設置當初に植えたる「桜樹」多数あり、花季節には「縣營運動場」の夫れと共に、松本市内に於ては、他に此類少き、櫻見場所なりしなり。構内には其他にも立本は少々存在するも、概して緑地は少し。
- 一、昭和廿一年四月、松本醫學專門學校を此地に移すことになりて以來、予は「正門見通し」の地域に「記念樹」して「欐苗」を「二列」に植えしめたり。其れ以來は、雑木たる多事に打紛れて、構内への植樹に手をつけ得ずして、昭和廿四年の春を迎へたり。

↓「正門見通し」の地域に「記念樹」
して「欐苗」を「二列」に植えしめた
り

辰野」迄は同車したり。

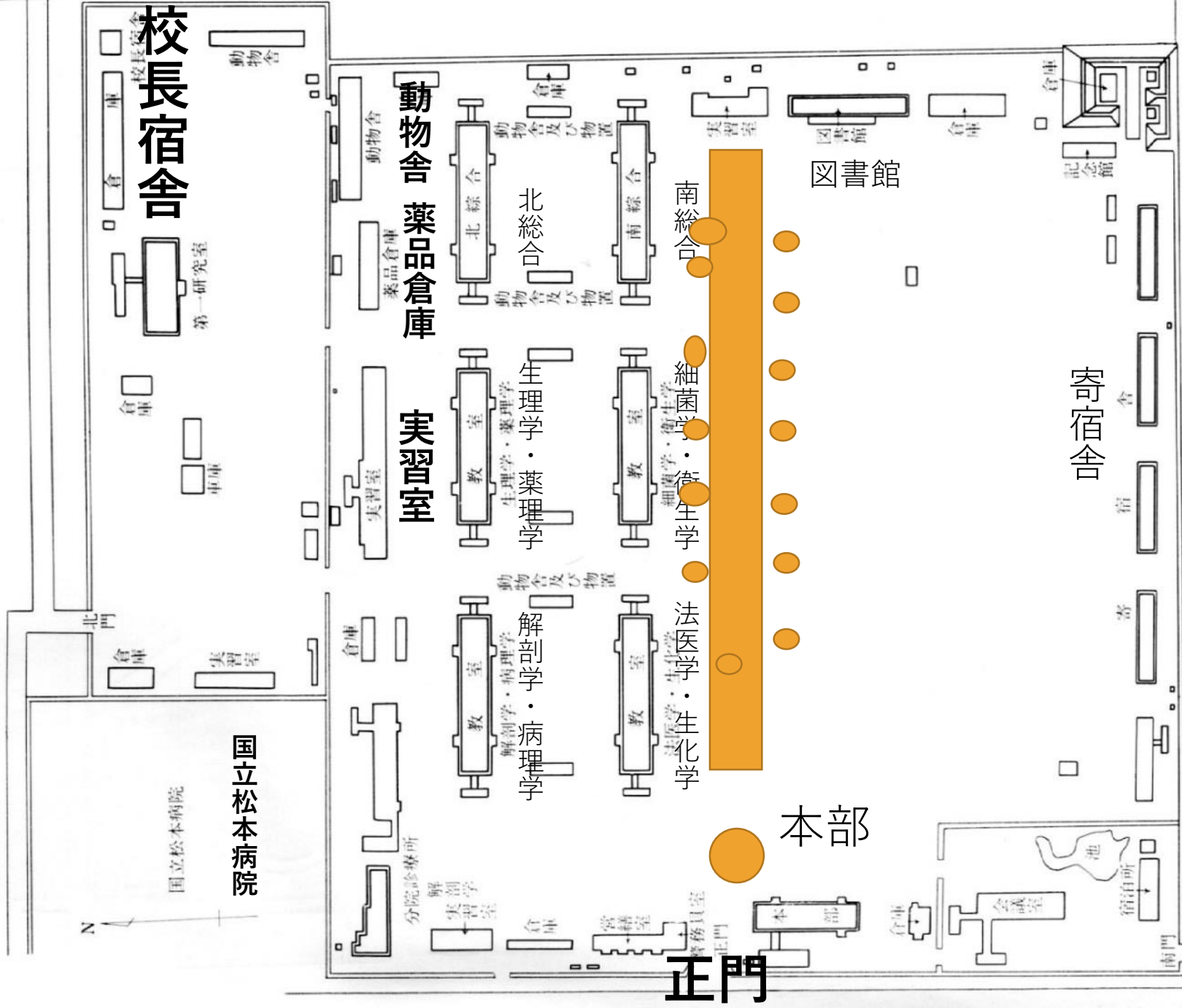
- 一、三月卅一日、予は文部省にて、「新制國立大學創立事務責任者」の「打合せ會」に出席し、四月一日歸松し、「四月三日」を期して、構内への「植樹」を開始せしめ、主として構内周圍堤防内側へ植付けしめたり。「四月二日」夜に陣雨あり、「三日」は晴天にて、植樹には、絶好の日柄大氣柄なりし也。

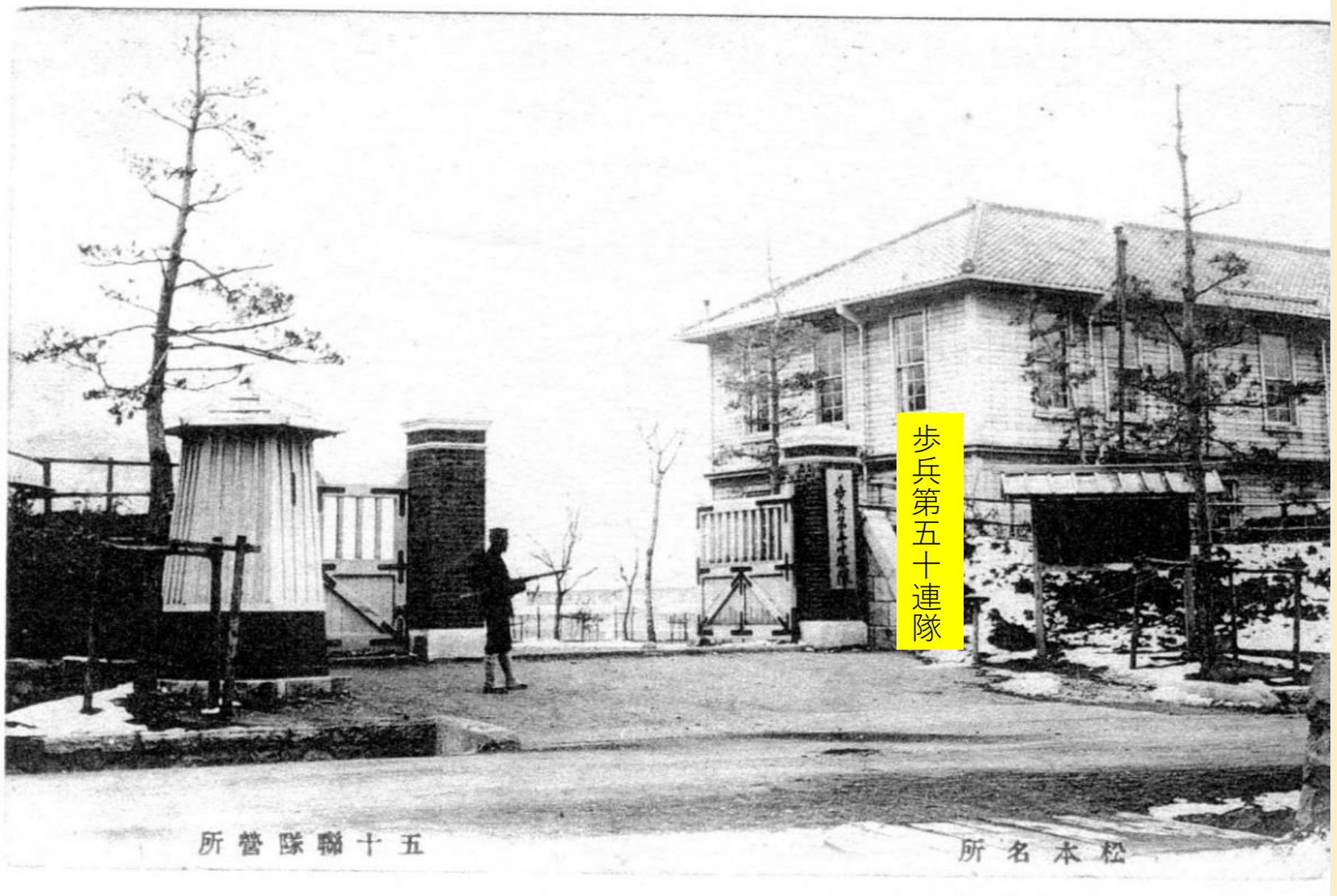
- 一、宮城氏は、作業員數名を指揮して、三、四日兩日に亘りて、一千本の苗木の内十本程を残して、全部の植付を終了し得たりと云ふ。予は四月六日午前中、宮城殿の案内にて、植付けたる場所を一巡したり。

昭和21年4月現在

松本医学専門学校建物配置図

(昭和21年)

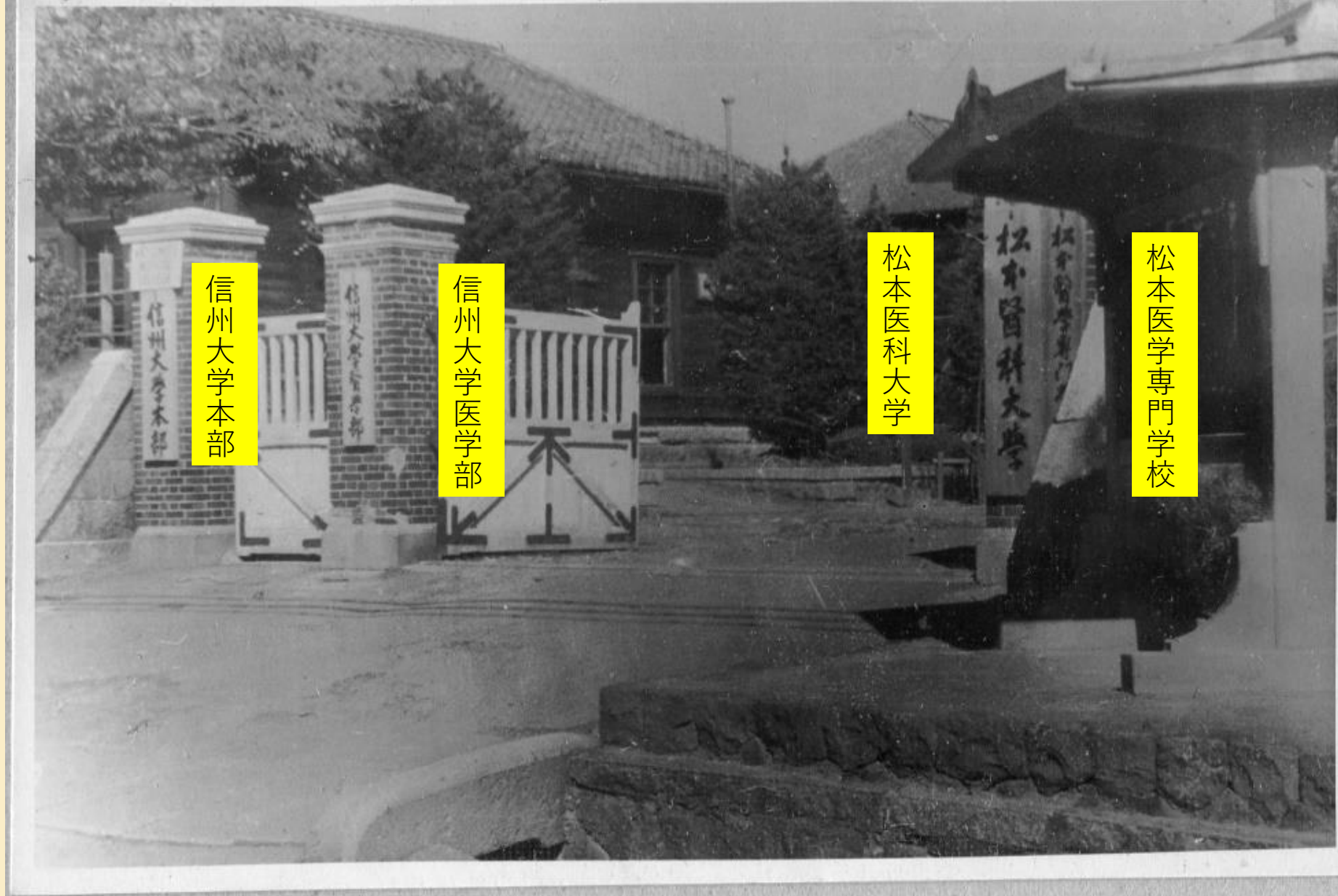




歩兵第五十連隊

五十連隊正門
(昭和初期)

『信州松本絵葉書集成』(窪田雅之編著 書肆 秋櫻舎刊)



信州大学本部

信州大学医学部

松本医科大学

松本医学専門学校

連隊正門 ⇒ 医専・大学正門

昭和24年



連隊正門の場所につくりかえられた正門

昭和35年



大学構内 昭和35年



大学構内 昭和35年



医学部のけやき並木（旧メインストリート）

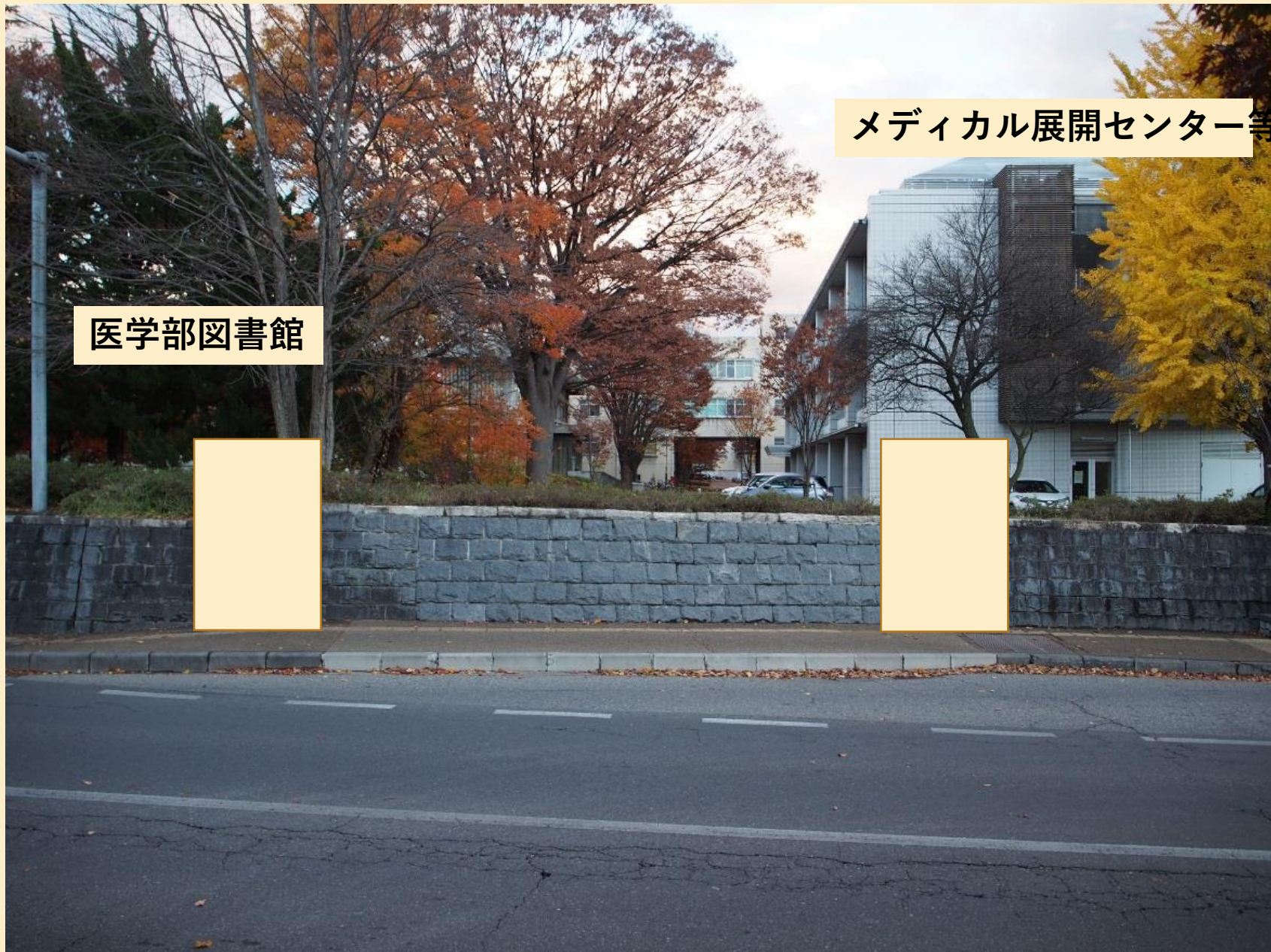


医学部のけやき並木（旧メインストリート）



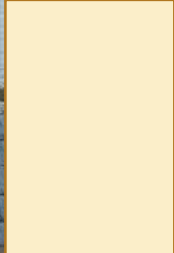
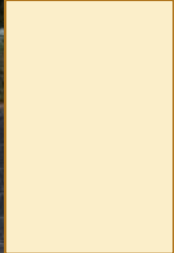
竹内松次郎初代医学部長像

このケヤキ並木のなかに、松本医学専門学校校長、松本医科大学学長をつとめ、信州大学開学に際して設置事務局長を務め、さらに初代医学部長となった竹内松次郎の銅像が建てられている。



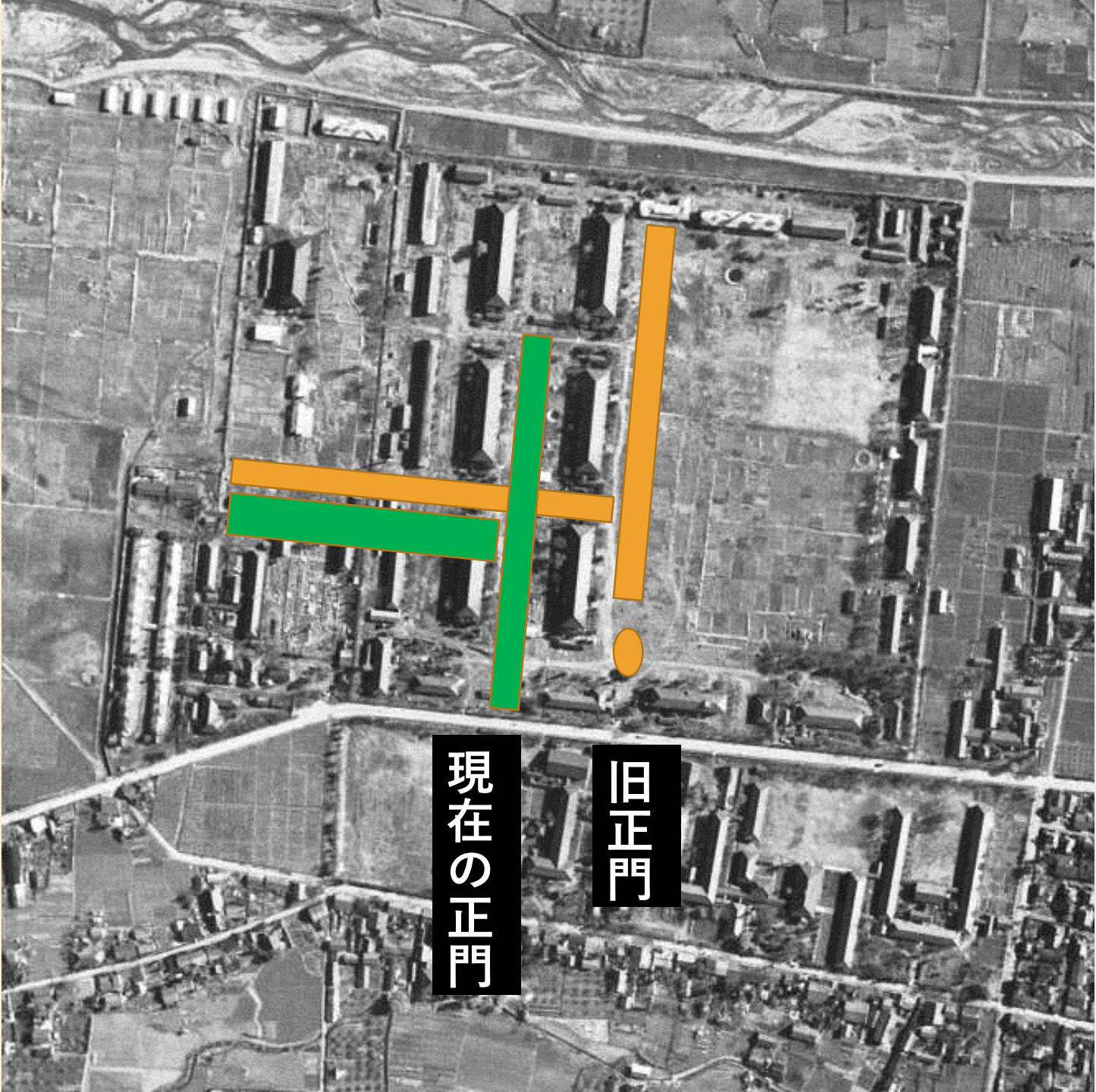
メディカル展開センター等

医学部図書館



旧正門跡

石垣の色が白いところが正門のあった場所



1971年以後の正門及びメインストリート



1971年までの正門及びメインストリート

現在の正門

旧正門

漢詩 「官舎之記」

竹内松次郎：

- 昭和21年12月15日、それまで寄宿していた横田の官舎から、引越し。
- 昭和22年正月5日、詠唱
- 松田弘氏に対して漢詩を約束していた

松田弘氏：

- 松本医専解剖学教室の職員として勤務。
- 勤務中、週一回、英語を習うために官舎に通った。

官舎之記
 中信連山園
 盆底松本平
 松本北極端
 旧兵營之跡
 戦後為校庭
 文教代講武
 千桜知否哉
 春河遠山白
 構内五万坪
 校舎総一万
 北隅有小棟
 改造為官舎
 旧臘極月半
 自御母家移
 室内玉冊散
 洪然迎新年
 稿未成受松田君來訪
 丁亥一月五日朝
 十松



竹内松次郎(1884~1977)

官舎之記
 中信連山園
 盆底松本平
 松本北極端
 旧兵營之跡
 戦後為校庭
 文教代講武
 千桜知否哉
 春河遠山白
 構内五万坪
 校舎総一万
 北隅有小棟
 改造為官舎
 旧臘極月半
 自御母家移
 室内玉冊散
 洪然迎新年
 稿未成受松田君來訪
 丁亥一月五日朝
 十松

官舎之記

竹内松次郎

昭和22年(1947)1月5日
 19×74 cm
 医学部 蔵

信州大学の設立に尽力し、初代医学部長をつとめた^{たけのうちまつじろう}竹内松次郎
 (雅号：十松)直筆の書。医学部の前身である松本医学専門学校の初代校長として招かれ、構内に存在した官舎(校長宿舎)への入居に際して詠んだ漢詩。旧陸軍歩兵第五十連隊の駐屯地であった頃より有名な桜の様子とともに、無事に入居の済んだ安堵感を詠んでいる。

中信地方の連山（北アルプス）は、盆地である松本平を囲んでいる。

松本の北の端、旧兵営の跡は、戦後に校庭となり、文教が講武に代わった。

そこにあるたくさんの桜の木を知っているか。

春の川、遠くに雪をいだく山が見える。

構内は5万坪、校舎は1万坪。

その北の隅に小さな家があり、改造して官舎とした。

去年の12月半ば（15日）、御母家（おもや）より移った。

部屋の中は本の片付けもまだ終えていないが、ゆったりと、新年を迎えた。

漢詩の原稿はまだできていなかったが、松田君が尋ねてきた

丁亥（昭和22年）1月5日朝

十松

松本の北の端、

旧兵営の跡は、戦後に校庭となり、文教が講武に代わった。

→ 武から文への転換を体感。それを率直に表現。

竹内松次郎 随筆 「学都松本」

1947年7月14日

1937年、ドイツ「月沈原ゲオルヒ・アウグスタス大学」創立200年記念祭に、東京帝国大学の代表として参加。記念品として配布された「月沈原の学徒」(1813年刊)には、大学都市としての「月沈原大学」の様子、都市周囲の景観などが記されていて、竹内氏がこれから経営しようとする松本医専、さらには医科大学、信州大学の手本となると実感。そこから、大学を中心とする「学都松本」を目指そうと文章をしたためた。

ドイツの大学都市＝学都への憧憬

→ 松本にその実現を展望する

学都松本

学部 松本

(Carlson Georg-Augusta-Universität)

松

一、昭和十二年(一九三七年)の初秋、瀧逸園「月沈原ゲオルヒ。アウ
グスタ大学」「創立二百年記念祭」に「東京帝國大学」の「代表
」として参列するの光榮を荷負ひたるは、我國の「帝國學士院
」の「代表」として、同地に向はれたる「桑木東大名學教授」と
共に、該記念式典に参列し、世界の諸大學よりの代表者に伍して、
「祝辭」を述べ、「記念品」を「月沈原大學」に贈呈して貰ふこと
正に十年前の事なりしなり。

一、「月沈原大學」よりは、其の際、數冊
られたり。其の内には、「月沈原の學
一八頁」と云ふ「小冊子」あり。此書
同、「月沈原大學」「法學部」に學び
ルルホト氏が、氏の「月沈原大學」時

「月沈原大學」に對する「學徒愛」の
一、¹⁹⁴⁷「月沈原」に創設せられたる「月沈原
年近くを經過し、「大學」の容姿は先
世に貢獻し、¹⁹⁴⁷「月沈原」に對する「ゲオル
」に無朽化せられたり。

「月沈原の學徒」には、「月沈原市」
ての「月沈原」、「月沈原大學」の現
の生活事情、「月沈原」にての「時」
カヒ」等を、極めて面白く敘述し、「
さんとせるもの如し。

「月沈原」に對する「學徒愛」の
一、¹⁹⁴⁷「月沈原」に創設せられたる「月沈原
年近くを經過し、「大學」の容姿は先
世に貢獻し、¹⁹⁴⁷「月沈原」に對する「ゲオル
」に無朽化せられたり。

を忍び、眼前に「渺茫たる將來」を眺めて、「學都松本」の形
に協力せんとすることの、「責任」の重大なるを體る。

一、「月沈原大學」に限らず、世界に著名なる諸大學の「創設史」を
通覽するに、何れも、其の創設當初の「偉大なる中心人物」の存
在を記さざるは無し。而して著名なる「大學」は、其の創設に「
大事件」の起りたる後に創設せられたりと申すも間違ひ無かる可
く、「松本醫科大學」の創設も、日本國に未曾有の「大事件」
後に於行はれんとするもの也。「柏林大學」は「ナポレオン」の
獨逸國踐踏後の產物也。「ローマ」に新設せられたる「ムソリニ
」大學」は第一次歐洲大戰後の新發生に係る。即ち世界文明の大
學は、嘗て國家の難局に對處せる大人物の連業なりとも見らる。
一、明治の興隆時代に(今より約四十年前の頃より)、信州人が常に
希望の夢に圖きたる「信州大學」は、昭和の大戦戦を待たざれば
其の實現の若に就くの機會を興へられざりしと云ふも、亦世界文
化進歩史の「共通原則」の支配にもれぬ一例ならん乎。而も是れ

「稱を轉して藤と爲さん」とする入世の崇高學業の一つならん。
一、嗚呼、昭和十九年(一九四四年)四月創設せられたる「松本醫學
専門學校」が、所詮、將來の「松本醫科大學」の前身たる可き「
運命」を描ひ居りし乎。「松本醫科大學」の校舍に宛てらる可き
場所は實「松本歩兵第五〇部隊」の跡なり。明治中期以來「
」道場たりし此の場所が、今後、「講文」の「中心地」となり、其
の「兵舎」は轉して「校舍」に改めせられ、其の「營庭」は「校
庭」となりたり。更に將來に於て、其の「綜合大學」たらんとす
る「因縁」は、「學都松本」の描ひ居る所ならずや。

一、^{今後將來に於て}是は「松本醫科大學」創設の時運に際會して、「松本市の歴史」
「地理」・「學都としての資質要素」・「山川の風情」・「將來に
於ける「學徒の生活」・「精神鍛練の實相」等を想像致して、小
冊子「月沈原の學徒」の如き「學都松本」の小冊子を起稿する遊
筆なる「學徒」が發生せんことを希待するものなり。

而して是は、一〇〇年の後に、更に二〇〇年の後、吾永久に経歴す
可き此の「學都松本」の理想的發展進歩を念願するもの也。

(昭和二十二年丁亥七月十四日五。〇〇筆此小文。)

松本醫學専門學校
松本醫學専門學校

大事件」の起りたる後に創設せられたりと申すも間違ひ無かる可く、「松本醫科大學」の創設も、日本國に未曾有の「大難事件」後に於行はれんとするもの也。「伯林大學」は「ナボレオン」の獨逸國蹂躪後の産物也。「ローマ」に新設せられたる「ムソリニ」大學」は第一次歐洲大戰後の新發生に係る。即ち世界著明の大學は、當該國家の難局に對處せる大人物の遺業なりとも見らる。明治の興隆時代に（今より約四十年前の頃より）、信州人が常に希望の夢に圖きたる「信州大學」は、昭和の大敗戦を待たざれば其の實現の著に就くの機會を與へられざりしと云ふも、亦世界文化進歩史の「共通原則」の支配にもれぬ一例ならん乎。而も是れ

「禍を轉して福と爲さん」とする入世の崇高專業の一ツならん。

嗚呼、昭和十九年（¹⁹⁴⁴）四月創設せられたる「松本醫學

専門學校」が、所詮、將來の「松本醫科大學」の前身たる可き「

運命」を擔ひ居りし乎。「松本醫科大學」の校舍に宛てらる可き

場所は舊「松本歩兵第五〇部隊」の跡なり。明治中期以來「講武

道場」たりし此の場所が、今後、「講文」の一中心地となり、其

の「兵舎」は轉して「校舍」に改造せられ、其の「營庭」は「校

庭」となりたり。更に將來に於て、眞の「綜合大學」たらんとす

る「因縁」は、「學都松本」の擔ひ居る所ならずや。

●は「松本醫科大學」創設の時運に際會して、「松本市の歴史」

「地理」、「學都としての資格要素」、「山川の風情」、將來に

於ける「學徒の生活」、「精神鍛練の實相」等を想像致して、小

冊子「月沈原の學徒」の如き「學都松本」の小冊子を起稿する選

筆なる「學徒」が發生せんことを希待するものなり。

今後將來に於て

竹内松次郎 「学都松本」

1947年7月

(前略)

この部分に、1937年のドイツ ゲッチンゲンでの経験を記す)

1、明治の興隆時代に(今より約40年前のころより)、信州人が常に希望の夢にえがきたる「信州大学」は、昭和の大敗戦を待たざればその実現の緒に就く機会を与えられざりしというも、亦世界文化進歩史の「共通原則」の支配に漏れぬ一例ならんや。而も是れ「禍を転じて、福となさん」とする人生の崇高事業の一つならん。

1、嗚呼、昭和19年(1944)4月創設せられたる「松本医学専門学校」が、所詮、将来の「松本医科大学」の前身たるべき「運命」を担いおりしや。「松本医科大学」の校舎に宛てらるるべき場所は、旧「松本歩兵第五十部隊」の跡なり。明治中期以来「武」の道場なりしこの場所が、「文化」の中心地となり、其「兵舎」は転じて「校舎」に改造せられ、真の「総合大学」たらんとする「因縁」は、「学都松本」のにないおる所ならずや。

1、余は、「松本医科大学」創設の時運に際会して、「松本市の歴史」「地理」、「学都としての資格要素」、「山川の風情」、将来に於ける「月沈原の学都」の如き「学都松本」の小冊子を寄稿する達筆なる「学徒」が発生せんことを期待するものなり。

而して余は、100年後に、更に200年の後、否永久に継続すべきこの「学都松本」の理想的発展進化を念願するものなり。

(昭和22年丁亥7月14日5時草此小文)

竹内松次郎の「松本」観

○メインストリートとケヤキ並木

○旧陸軍歩兵第五十連隊の兵営、練兵場跡地

→大学キャンパスをつくろう

→講武から文教へ

○「学都松本」という認識

「医専」「医大」「信州大学」を核とした学園都市
松本へ

2 開学へ

— 1948年4月～1950年10月30日 —

(竹内松次郎の開学準備に関する資料)

国の動き

・1945年8月 敗戦(終戦)

・1946年3月 アメリカ教育使節団報告書

・1947年3月 「学校教育法」施行(昭和23年4月1日適用)

第一条:この法律で、学校とは、小学校、中学校、高等学校、
大学、盲学校、聾学校、養護学校及び幼稚園とする。

1947年度に小中学校、

1948年度に高等学校、

1949年度から大学、を発足とした。

・1948年6月 新制国立大学設置の11条件

(GHQ・CIE、文部省)

民間情報教育局 (Civil Information and Education Section)

→ ・1府県1大学

- ・都道府県には必ず教養及び教職に関する学部又は部
- ・大学の名称は府県名を原則

長野県の中での動き

1947年1月 信濃教育会、信州大学設立委員会を設置。

1946年末～1948年春 単科大学への模索

長野師範学校

→ (長野) 学芸大学

長野青年師範学校

→ (長野) 実業教育大学

長野県立農林専門学校

→ 長野県立農科大学

上田繊維専門学校

→ 上田繊維大学

松本高等学校

→ 松本文理科大学

総合大学へ

・1948年4月2日～3日 長野県高専校長会議

(於:長野青年師範学校)

この場で「信州大学」の名称すでに使用される

4月3日「**信州大学設立仮事務局**」

(**松本医科大学本部に設置**)

→「**国立信州総合大学**」の設立具体案作成

→上田繊維専門学校は単科大学目指す

4月13日 長野県高専校長会議

「**信州大学設置委員会**」設置を決定

4月14日 **第1回信州大学設置委員会**

4月28日 信州大学設立期成同盟会(会長林虎男県知事)
信州大学設置事務局(松本医科大学)

5月18日 国立信州大学実施準備委員会
(委員長:松本医科大学長 竹内松次郎)

7月3日 国立信州大学実施準備委員会議事要項
「信州大学設置要綱」:名称を「信州大学」

→ **7月30日 設置申請書を文部省に提出**

→ 大学設置委員会における審査

→ **1949年5月31日 国立大学設置法公布・施行**

同日付 文部省学校教育局長通知(設置答申)

信州大学に通知文到着(6月20日)

長野県高専校長会議 議事録(竹内松次郎)

1948年4月2日、3日

長野県高専校長会議覚書

二三、四、二

長野県高専校長会議出席し中村副出雲、望原教育部長

の二式も会議に加はる。我々の新方針に對應し、長野県の大学教育の組織確立に

深き意見交換を有り。一、文部省に於ける高専、高専校、大学、師範各「長会議」の橋本報告

一、各高専校長の特別大学となったものとして希望陳述。

一、「総合」連合「協定」三種の説。一、「総合大学」又は「連合大学」おの目標線に沿ふ橋本校長の希望。

一、一般教養学科の授業を及的共通融通せむる方策案の考案。

一、師範の計画としての教養養成部は他「学部」とは別なざるを得ざる旨の陳述。

一、教養学科の復修を「六二年」に限ることの不便なる理由の説

明(師範、繊維、二專、農専)

一、女專、青師の校金を用いて一般教養科の授業の或る部分は

一、の能くあしとの申出。

一、一般教養授業の大半を「総合」にて行はんとすることの案。

一、「農専(現独立)」を「学部」に加ふることの希望(農専校長代理

及望原教育部長)

一、文部省に提出する「最終案」の形成に就て「高専」と「師範」との

の相違点。

一、学藝学部と実業教育学部とを別々の「学部」とするの案。

一、役員昼食及び夕食を共に懇談午後七時過ぎに及び

三日午前九時より会議を続行することにして七時三十分解散会

↑
12

東京府立第一高等学校

男子部 三名
女子部 三名
計 六名

一、呉堤也、一、尾上、二、尾上、研究、完

一、尾上、研究、完

九月十日、尾上、研究、完

一、尾上、研究、完

九月十日、尾上、研究、完

中村、研究、完

一、尾上、研究、完
一、尾上、研究、完
一、尾上、研究、完
一、尾上、研究、完
一、尾上、研究、完

尾上、研究、完

尾上、研究、完

尾上、研究、完

尾上、研究、完

尾上、研究、完



信州大学
信濃大学
シナノ大学

昭和23年 竹内松次郎手記

前身校と学部

- 松本高等学校1919年 →1949年文理学部
- 松本医科大学1948年
松本医学専門学校1944年 →1949年医学部
- 長野師範学校1943年
長野青年師範学校1944年 →1949年教育学部
- 長野工業専門学校1944年 →1949年工学部
- 長野県立農林専門学校1945年 →1949年農学部
- 上田繊維専門学校1944年 →1949年繊維学部

1949年6月1日 信州大学発足(開学記念日)

1950年10月30日 開学式、祝賀会開催

開学式



信州大学概覽

昭和二十五年十月

信州大學概覽

軍都から学都へ

— その象徴としての松本キャンパス —

松本キャンパス



県キャンパス


旧制松高、文理、人文・理

1966～1973年

旭キャンパス

松本医専、医大、医学部

松本キャンパス(現在)



信州大学設置事務局
松本医科大学・松本医学専門学校

旧練兵場

忠霊殿（陸軍墓地）

国立松本病院

護国神社

長野師範学校女子部

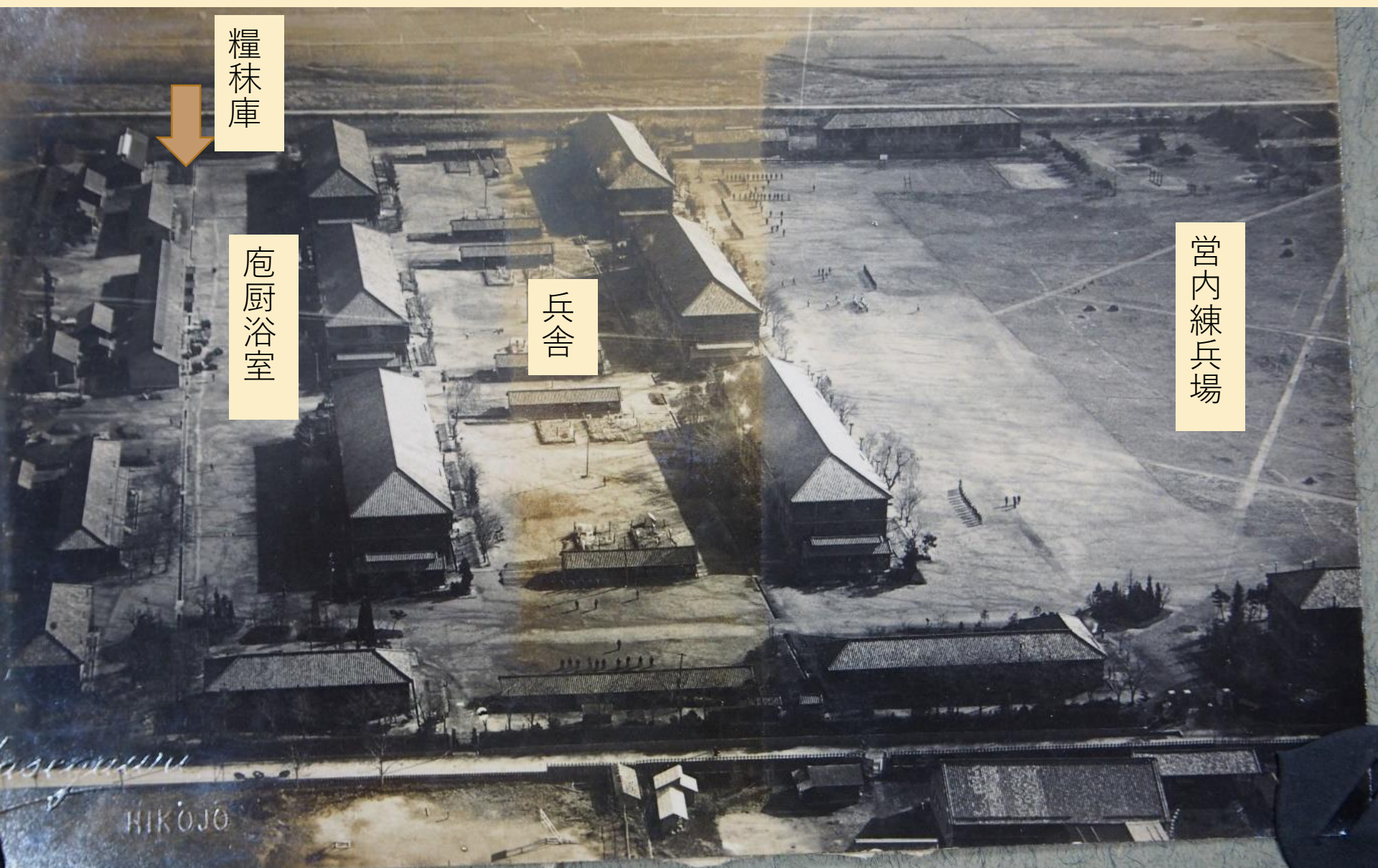
1948年の松本

米軍航空写真
1948年11月

旧射撃場

松本深志高等学校
(旧松本中学校)

附属医院



糧秣庫

庖厨浴室

兵舎

宮内練兵場

NIKŌJŌ

大正十五年一月

五十連隊兵營空中写真（大正末年）

旧歩兵第五十連隊敷地・建物の教室等への活用

(1) 木造兵舎 → 研究室、教室

(2) 煉瓦造建物—赤レンガ倉庫(複数棟あった煉瓦建物)

「松本歩兵第五十連隊之図」:

庖厨浴室、庖厨所、雑菜庫、雑米庫、魚菜庫

庖厨浴室、庖厨所 ⇒ 医学部病理学教室

(3) 大学のキャンパスとしての整備計画

1963年の旭キャンパス



1975年



2007（平成19）年のキャンパス。





旧庖厨浴室
(医学部標本室)

写真は昭和40年前後と思われる。

平成6年(1994)解体



旧松本歩兵五十連隊糧秣庫



* 登録有形文化財

医学部資料室

旧松本歩兵五十連隊糧秣庫

規模：5間×20間＝100坪

松本市歌 1940年制定

高野辰之作詞 信時潔作曲

一、

日本アルプス 筑摩連峰

繋ぐ平野の松本市こそ
山色水光 世に麗しく
宜なり**観光都市**の名高き
東は浅間、山辺のあたり
玉吹く**温泉** 所在に尽きず。

二、

五層閣上 見渡す限

四郊は沃野、交通至便
所々の煙突 中空高く
宜なり**商工都市**の名負へ
る
出で入る貨物は 車に満ち
て
力は市民の歩みに著し。

三、

伸びよ松本、栄えよ吾が市
宜しく**学都**と呼ぶべき此処に
国を**鎮めの兵營**並び
国を**護りの社殿**は聳ゆ
おう、松本 足らへる都市の
行く手に輝け 映ある光。

「軍都松本」と「学都松本」

第1期 1908年 陸軍歩兵第五十連隊移駐 → 軍都
1919年 松本高等学校開学 → 学都

1940年 「松本市歌」制定 3番：「学都」
鎮めの兵營・護りの社殿・・・軍都

第2期 1945年 敗戦→「軍都松本」の消滅
1947年 「官舎之記」

兵營之跡 → 校庭

講武 → 文教

随筆「学都松本」 (竹内松次郎)

第3期

2007年 松本市制施行100周年：「**学都松本**」

2011年 松本駅前 3 ガク都のモニュメント
学都・岳都・楽都

松本キャンパスは、戦前の旧歩兵第五十連隊の跡地に立地している。

昭和19年に開学した松本医学専門学校は、当初定まったキャンパスが無く、松本高校、松本中学の校舎を借りてスタートした。

校長であった竹内松次郎は、1946年2月GHQ、長野県当局と交渉し、この地を松本医学専門学校のキャンパスとして確保した。(1946年4月)

この地は、松本医学専門学校の後、松本医科大学のキャンパスとなり、さらに信州大学松本キャンパスになった。

連隊跡地を松本医専のキャンパスに改造するにあたって、竹内松次郎は、旧兵舎と構内練兵場の境界をメインストリートとして整備し、櫨の苗を植えた。

また、横田にあった当初の校長官舎を引き払い、キャンパス内北東隅の建物を改造して官舎とした。

それを題に詠った「官舎之記」は、キャンパスについて、武から文への転換を象徴するものとしている。

竹内松次郎は、1947年の段階で、軍都から学都への転換を強く意識し、随筆「学都松本」を記した。

戦前の軍都松本の象徴である連隊跡地は、戦後学都松本の拠点となった。

松本キャンパスは、松本市が軍都から学都へと転換したことを示す象徴的な場所である。

このキャンパスに学ぶ私たちは、この場所が、軍都から学都への転換を示す場所であることを自覚して勉学、研究に努めたい。